

留学先国名 : イギリス

留学先学校名 : SOAS University of London

留学期間 : 平成 28 年 9 月 28 日 ~ 平成 29 年 7 月 3 日

(専門科目習得成果)

コース内容は、国際政治経済学・国際関係学・国際開発学の基礎の習得である。取り組んだ課題は主にエッセイの作成である。主に学んだこと(興味深かった分野)は、国際法の脆弱性や内政不干渉の是非についてである。学習の到達度に関して、学術的知識のインプットに成功、更にノートテイキングやライティングのスキルの向上が見られた。また、本コースを通して、現在我々が存在している世界の成り立ちを以前よりも俯瞰的に考えることができるようになった。

成績向上のための課題は、予習復習の質の向上であった。当評価の理由は、予習復習の質の向上を一年間通しての目標としていたが、大きく向上することができなかったからである。

(語学学習成果)

コース内容は、読み書きや会話の技術向上、IELTS 全セクションの練習/IELTS のスコアアップである。取り組んだ課題は、論文作成練習、プレゼンテーション能力向上のための訓練、そして IELTS 全セクションの練習および実践的な模擬試験である。学んだことは、ライティングとスピーキングにおける典型的なフレーズを機械的に繰り出すことの有効性、プレゼンテーションで使うテンプレートとしての言い回しの習得(文と文のつなぎ言葉など)である。学習の到達度について、ライティング、リスニングスコアの向上、エッセイの応用的な構築力の向上が見られた。

成績向上のために克服すべきこと、課題、目標は、予習復習の質を上げることであると考えた。当評価の理由も、予習復習の質の向上を一年間通しての目標としていたが、大きく向上することができなかったからである。

加えて、SOAS の語学プログラムを利用し、一学期間ビルマ語を学んだ。成果として、ビルマ語の基本的な読み書きの習得に成功した。

(課外活動)

<言語交換>

SOAS には日本語学科があり、その学生と Language Exchange を個人的に行うことで英語力の底上げに勤しんだ。成果としては、授業では得られない、自国語のような語学運用能力の向上が挙げられる。

<音楽活動>

大学や街中の飲食店で出会った大学准教授、他大学の院生、政府機関の職員、そして私の四人でバンドを結成した。活動期間は七か月間にわたり、隔週でスタジオにて練習し、基本的に毎月ミニライブを行った。音楽活動を通じて、普段めぐり合うことのない人間の懐に、深く潜り込んで行けることを知った。またそこから生まれる新しい繋がりにより、大いなる可能性(新たな音楽性、関心のあるアカ

デミック分野の専門家とのネットワーキングなど)を感じた。

<ネットワーキング>

SOAS や他のロンドン大学で催される一般向けの講義に精力的に参加し、学術レベルの向上だけでなく、自分の専門分野と同じ領域を研究している方々との繋がりを作ることに日々努めた。

(留学を通して得たこと)

<勉学>

語学の授業に関しては、課されるタスクに加えて予習復習を含めた自習の時間を別に確保することが大切であることを強く感じており、それらを習慣としてこなせるようになった。専門科目に関して、例えば国際政治経済学という分野のあらゆるトピックに焦点を当てるので、いかに自分の専門分野と結びつけるかによって、自分の研究が深まるか否か大きく影響するといった印象を受けた。専門科目の担当者と頻りに話し合いの時間を設け、自分自身が抱えている疑問を提供するのみならず助言をもらうことの重要性を認識した。

授業外では、SOAS や他のロンドン大学で催される一般向けの講義に精力的に参加し、学術レベルの向上だけでなく自分の専門分野と同じ領域を研究している方々との繋がりを作ることに日々勤しんだ。以前は、他大学での講義に参加することなど皆無に等しかったので、今後こういった学びの機会を設けることの大切さを学んだ。

<生活>

初めての一人暮らしに、初めのうちは悪戦苦闘した。生活に必要な物を調べてはみるものの、本当に必要な物とそうでない物との区別がつかなかった。しかし、同じ寮に住む友人と共に助け合い、何とか不自由なく暮らしていけるようになり、今では朝食から夕食まで全て自炊することができるまでになった。

(将来の進路・キャリア計画)

大学で研究中の環境倫理、学外で所属している若者環境 NGO 活動(気候変動・エネルギー問題)、そして留学で学んだ幾つかの社会科学系の学問を通して、キャリア形成を考えると一つの道が見えてきた。個人的に関心のある電力システム改革にまつわる仕事に就くとなれば、分野柄修士号の取得が必須となる。さらに、政治や行政に関する知識も求められるので、エネルギー政策のみならずそれを取り巻く学問を包括的に学ぶ必要が出てくる。したがって、大学卒業後は、大学院にてエネルギー政策の修士号をとることを当面の目標に定めており、現在幾つかの研究科に出願予定である。

修士号取得後は、環境・エネルギーコンサルティング系の研究機関もしくは民間企業に就職することを、中期的な目標としている。そこで得られた知識・人脈・経験、また留学で培った人間力・英語力を活かし、独立したエネルギー事業を行うことが、現在考えうる私の長期的ビジョンである。

(これから留学する人へ)

一つ言えることは、留学先の選び方次第で、できること、また得られる成果の種類や質が大きく変わるであろうということである。また、自分の進路・キャリアと学習とをつなぎ合わせることで、大きなモチベーションを持つことができる。皆さんには、自分が目指す将来を見据えながら、留学先を選ぶことを強く勧める。